



UNIC Tokyo Dateline UN

July / August 2001 Vol.23

国際連合広報センター



「小型武器を破壊する日」

UNギャラリー関連イベント報告

ニューヨークの国連本部では7月9日から20日まで「小型武器非法取引のあらゆる側面に関する会議」が開催されました。世界中で非法に用いられている小型武器は約5億丁といわれ、犠牲者は年間平均50万人、女性と子供がその8割を占めています。

国連ではこの問題をさらに世界中の皆様にご存知いただくために、7月9日を「小型武器を破壊する日 (Small Arms Destruction Day)」と定め、世界中で小型武器を破壊したり、焼却したりするイベントを奨励しています。

東京・渋谷のUNハウス正面でも、この日、渋谷区内の小学生たち27名が各々持ち寄ったおもちゃの銃剣類を積み上げ、色とりどりの「バツ印」を付けて小型武器の拡散に対して断固として“NO”と言うデモンストレーションを行いました。子供たちに続き、イベントの参加者全員にご協力いただき、武器の山はあっという間にバツ印に埋め尽くされました。

続いて行われたのは、小学生の皆さんとアーティスト・日比野克彦さんによる「小型武器反対!」のワークショップ。大きく引き伸ばした拳銃や地雷の写真の上に、たくさんの花を描いて武器をなくしてしまおうという試みです。はじめは戸惑い気味だった子供たちでしたが、日比野さんの熱心なアドバイスにより次第にのびのびと筆を走らせ、色とりどりの花を咲かせてくれました。

子供たちの描いた20枚の絵は、UNギャラリーで8月31日まで行われている「なくそう! 小型武器・対人地雷展」に飾られています。ギャラリーへお越しの方は、どうぞお見逃しなく。【関連記事6~7ページ】



大きく引き伸ばした小型武器の写真の上に、子供たちは思い思いの絵や文字を書いてくれました



積み上げたおもちゃの武器に、次々とバツ印をつけていく子供たち。左端の白いTシャツを着た男性が日比野克彦さん

INSIDE

国際薬物乱用・不正取引防止デー	2
拷問の犠牲者を支援するデー	3
世界人口デー	4
新たな誓い「広島と長崎の悲劇を繰り返さない」	5
「小型武器を破壊する日」イベント	6-7
UNギャラリーへようこそ	8
アナン国連事務総長の再選によせて	9
HIV／エイズに関する 国連特別総会での演説	10-11

<http://www.unic.or.jp>



「薬物に反対する親善大使」に新たに任命されたイランのアジジ選手



薬物がぬいぐるみの中に隠されていることもある。このように薬物を密輸する方法は後を絶たない

薬物問題を地球的に概観する「世界薬物報告2000」(日本語版)が、この秋に出版されます。ご希望の方は当センターまでご連絡ください。(有料)



International Day Against Drug Abuse and Illicit Trafficking

国際薬物乱用・不正取引防止デー（6月26日）

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

貧富を問わず、薬物乱用の惨禍を逃れている国はありません。世界人口の3～4%にあたる人々は、日常的に不正毒物を消費し、破壊的な影響を受けているものと見られます。

不正な薬物の需要削減をさらに重視する必要があります。私たちの戦略は、特に薬物の密売者や仲間からの圧力に弱い若者に、より焦点を絞ったものとすべきです。薬物を摂取するライフスタイルに替わる選択肢を推進するためには、市民団体、企業、教員、医師および親を含め、コミュニティー全体が、若者の生活に興味を示し、若者の関心事を把握しなければなりません。このことはその他の必要性とともに、1998年に開催された薬物に関する国連特別総会が採択した「薬物需要削減の指導原則」にはっきりと示されています。

今年の国際薬物乱用防止デーのテーマは、プラスの変革をもたらす上でのスポーツの偉大な力を認識し、「薬物に対抗するスポーツ (Sports against Drugs)」となっています。薬物乱用が心身を破壊するのに対し、スポーツはこれをより強靱かつ健康にします。薬物乱用がやる気をなくさせるのに対し、スポーツには努力をして卓越性を求めることが必要です。薬物乱用が人間関係を脅かすのに対し、スポーツは参加を可能にします。また、薬物乱用が漫然とした生活に付け込むのに対し、スポーツは若者に焦点と構造化を与えます。

その名前、地位および時間によって予防キャンペーンを支援するプロスポーツ選手が世界中で増えていますが、中には国連親善大使を務めている方々もいます。私はこれらスポーツ選手に敬意を表します。私たちに共通の目標は、自らの身体を大切にし、その感性を磨き、薬物乱用とは無縁の実りある生活を築き上げるよう若者たちに促すことです。この目標達成に向け、私はこれらスポーツ界の方々およびすべての薬物乱用防止キャンペーン関係者と一丸となって努力してゆきたいと考えています。



「薬物に反対する親善大使」を務めるディパチ選手（左から5番目）。ソウル五輪で銀メダルに輝いた旧ユーゴスラビアの選手たちが、“Basketball without Borders (国境なきバスケットボール)”のために再結成し、青少年に「薬物に対抗するスポーツ」を呼びかける

International Day in Support of Victims of Torture

拷問の犠牲者を支援するデー（6月26日）

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

拷問は人間の尊厳の残忍な侵害です。それは犠牲者と実行犯の双方の人間性を失わせます。

一人の人間がもう一人の人間に対して意図的に及ぼす苦痛と恐怖は、殴打によって曲がった脊椎、銃に撃たれてへこんだ頭蓋骨、犠牲者を常に恐怖に陥れる悪夢の繰り返しといった、永遠に消えることのない傷を残します。

拷問からの自由は、どのような状況でも保護されなければならない基本的人権です。国際法規と保護のメカニズムに対する認識の高まりによって、この恐ろしい慣行を取り巻く沈黙の壁が徐々に崩れ去るのではないかという希望が高まっています。

しかし、拷問を行っても処罰されない状況にピリオドを打つためには、私たちすべての集団的な力が必要となります。それはすなわち、拷問をその本来の姿である国際犯罪として訴追することであり、「拷問およびその他の残虐な、非人道的なまたは品位を傷つける取扱いまたは刑罰を禁止する国連条約」を批准、履行し、これに関する「実効的捜査と文書化に関する原則」を遵守することであり、また、拷問を人道に対する犯罪および戦争犯罪として定義する「国際刑事裁判所ローマ規程*」を批准することです。それはまた、各々の社会における教育と発展の水準を引き上げることも意味するでしょう。

非政府組織(NGO)は拷問との闘いの前線に立って活動し、リハビリ・センターは拷問犠牲者の苦痛を和らげるために、懸命に努力しています。これらの人々に敬意を表するとともに、「拷問犠牲者のための自発的国連基金」を通じ、重要な資金援助を提供している政府に感謝しようではありませんか。私はすべての国々に対し、2002年にはより多くのプロジェクトに資金を提供できるよう、寛大な拠出を求めたいと思います。

私たちはこの国際デーに、拷問犠牲者の苦痛と勇気を想起しつつ、このような非人道的行為を考えないで済むような、相互理解に基づく社会を構築することを誓おうではありませんか。

「国際刑事裁判所ローマ規程」を記念するポスター。公平さを象徴する「天秤」に平和の象徴である「オリーブの枝」をあしらったロゴの下に、国連公用語であるアラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語の6カ国語で会議名が記されている



国連用語クイズ

以下は薬物に関する国連で使われる用語です。

日本語訳を考えてみましょう。

- 1: **United Nations Office for Drug Control and Crime Prevention: ODCCP**
- 2: **Commission on Narcotic Drugs**
- 3: **International Narcotics Control Board**
- 4: **Single Convention on Narcotic Drugs**
- 5: **Convention on Psychotropic Substances**
- 6: **Protocol Amending the Single Convention**
- 7: **United Nations Convention against Illicit Traffic in Narcotic Drugs and Psychotropic Substances**
- 8: **United Nations Inter-regional Crime and Justice Research Institute: UNICRI**

答えは8ページにあります

* 国際刑事裁判所ローマ規程
(Rome Statute of the International Criminal Court)

1998年6月から7月にかけて、ローマで国際刑事裁判所設立のための外交会議が開かれ、「国際刑事裁判所ローマ規程」が採択された。規程の発効により、少なくとも60カ国の批准が必要とされる。



2001年「世界人口デー」のポスター

World Population Day

世界人口デー（7月11日）

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

今年の世界人口デーのテーマ「人口、開発および環境」は、人類と地球のもろい関係を強調しています。

1960年以来、世界人口は倍増し、61億人に達していますが、その増加のほとんどは開発途上国で起こっています。1970年以降、消費も倍増していますが、この消費の86%は先進地域が占めています。人類は複雑な方程式を解かなければなりません。つまり、私たちは人口を安定化させる一方で、同じく重要なこととして、私たちの資源利用も安定化させ、万人のための持続可能な開発を確保しなければならないのです。

人間は70年前に比べて6倍もの量の水を消費していますが、これによって各地の帯水層は枯渇の危機に瀕しています。森林伐採、汚染および二酸化炭素の排出はかつてない水準に達し、地球の気候を変動させています。私たちが地球上の生態系に残す足跡は、これまでになく重いものになっています。

1994年の「国際人口開発会議」では、貧困の削減、人口増加の抑制および環境保護に対する包括的なアプローチの重要性が認識されました。これら関連目標を達成するための要件には、教育とともに、リプロダクティブ・ヘルスケアと家族計画の普及が含まれています。女性は世界の農業労働者の過半数を占め、家計の管理を担当しているのが一般的ですが、学習、土地の所有あるいは相続、および、自らの出産統制に対する権利を否定されることが多くなっています。その機会を拡充すれば、女性は子どもの数について情報に基づく選択を行い、貧困と環境悪化という悪循環を断つことができるのです。

来年の「持続可能な開発に関する世界サミット」は、これらの目標を達成するという私たちの公約を強化する機会となります。私たちは今すぐ、地球の踏みつけ方を緩め、その資源をより有効に使うための措置を講じることから始めようではありませんか。



キャンプに追いやられたイラクの母と子

国際シンポジウム 「文明間の対話」

国際連合は今年、2001年を「文明間の対話年」と定め、アメリカに代表される西洋文明、イスラム文明、中国文明など、世界の異なる文明が対話を通じて互いの存在を認め合い、理解しあう道を探よう求めています。その一環として、国連大学とユネスコは7月31日から4日間、東京と京都で国際シンポジウムを開き、文明間の対話の歴史的、文化的、政治的側面、アジアからの貢献などについて内外の専門家49人による意見交換を行いました。アナン国連事務総長はシンポジウムに寄せたメッセージの中で「国連こそ、対話は対立に勝るとの信念に基づき、対話を通じて紛争を防ぎ解決するために作られた組織だ」と述べて、この会議がより良い対話の道を見出すことへの期待を表明しました。シンポジウムの内容は国連大学が報告書にまとめ、今年12月ニューヨークの国連本部で開かれる「文明の対話・国連特別総会」に提出することになっています。



Never To Repeat Hiroshima / Nagasaki Tragedy

新たな誓いー「広島と長崎の悲劇を繰り返さない」

◇本文は8月6日、大島健三・国連人道問題担当事務次長兼緊急援助調整官によって代読された、広島平和記念式に対する国連事務総長のメッセージです。

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

きょう、この広島平和記念式典にお集まりになった皆様とともに、原爆の悲劇でお亡くなりになった方々を追悼し、世界平和を祈ることは、私にとって大きな名誉です。

56年前、原爆の投下は広島を破壊し、数十万人の命を奪い、筆舌に尽くしがたい惨禍をもたらしました。その3日後、長崎も同じ運命をたどりしました。世界は、20世紀のもっとも破壊的な発明である原爆による破壊という脅威をまざまざと見せつけられたのです。それ以来、核兵器の廃絶は国際社会にとっての優先課題となりました。事実、1946年に国連総会がはじめて採択した決議は、「原爆および大量破壊に应用できるその他あらゆる主要兵器を各国の軍備から排除すること」を求めました。

1945年以降、核軍縮には大きな進展が見られ、再び核兵器が戦争で用いられることはありませんでした。しかし、20世紀末までに核兵器を廃絶させるという人類の切実な希望は、人々と政府による不断的努力にもかかわらず、実現しませんでした。

昨年の核不拡散条約締約国会議で、核保有国は、核兵器の完全な廃絶を達成するという「明確な約束」を行いました。ミレニアム・サミットで採択された「ミレニアム宣言」では、過去最多の世界の指導者たちが一堂に会し、核兵器をはじめとする大量破壊兵器の廃絶に向けて努力することを決議しました。

この言葉を実行に移すときが来ています。私たちは、大量破壊兵器があらゆる国々に投げかけている恐怖の影を追い払わなければなりません。私たちは対応の文化を紛争防止の文化へと変えなければなりません。新しい世紀を迎えた今、広島と長崎の悲劇を決して繰り返さないという私たちの誓いを新たにしようではありませんか。そして、紛争を助長する貧困、不平等および不寛容を終わらせることにより、これを予防することを決意しようではありませんか。

私は広島の方々とともに、一致団結してすべての人々に奉仕する平和な世界の実現を祈りたいと思います。

開発金融諮問委員会・報告書

6月29日にニューヨークの国連本部で「開発金融諮問委員会」の報告書が発表されました。この委員会は、アナン国連事務総長の諮問機関として2000年12月に設置されたもので、エルネスト・セディジョ前メキシコ大統領を委員長に世界各国から選ばれた有識者11人によって構成され、日本からは株式会社ソフトバンクの孫正義社長が参加しています。

セディジョ委員長のもとで世界中から参加した国際的な指導者の方々と共に仕事をする機会を得たことは私にとって大きな名誉でありました。開発のための融資と言う極めて重要な課題に向けて委員会がいかに深く関わったかはその熱意のほどに表れています。

委員会のメンバーの多彩さは、各委員が開発やそのための融資のプロセスにおける段取りや関係者のあり方について考える際、様々な見方や視点を与えてくれました。さらに、私たちの幅広い議論は、資金を提供する国と受ける国双方の幅広いニーズや責任を厳しく見極め、新た



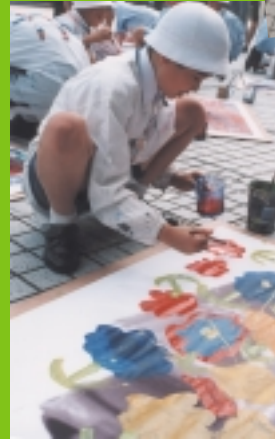
孫正義氏

な視点に基づくしつかりとした提言をまとめる事を可能にしました。

この提言は融資する国と受ける国の関係の根幹に焦点を当てるものであり、世界最大の資金提供国の一つである日本には、真剣かつ確固とした目的意識を持ってこの提言を受け止めていただきたいと思います。この諮問委員会の提言が、開発融資をより効果的なものとし、世界の貧困問題の解決に向けての指針となる事を心から願っています。

Small Arms Destruction Day — 9 July —

7月9日は「小型武器を破壊する日」



〔写真協力〕日本国連協会・東京都本部〔イラスト〕金子詳平

「小型武器を破壊する日」(7月9日)のUNハウス前イベントに参加していただいた青山学院初等部の生徒の皆さんから寄せられた「小型武器反対!」の作文の一部をご紹介します

地雷が埋まっていて、いつも危険な状態のまま暮らしている人もいますと聞きました。私がそういう環境で生活していたら、たぶん恐くてきっと一歩も外に出ないで、ずっと家の中にいると思います。だけど実際にそういう環境で暮らす人は、外に出て働かないと生活できないほど貧しくて、恐いのをがまんして一生けんめいくらしています。安全に暮らしている私たちは、そういうことを決して忘れてはいけないと思います。

今、世の中は、携帯電話やパソコン、MDなど、すごいスピードで発明され進化している。この力で、地雷をすぐに取り除けるものを、早く発明してもらい、もう今から地雷の犠牲者は、二度と出ないでほしいと思った。



武器が生み出すものは戦争と傷つけ合うことだけです。でも、この世の中で一人でも多くの人の、戦争などやめさせようと思う気持ちが、この世から戦争をなくすのではないのでしょうか。

子供兵士を作る団体はいったいどう神経をしているのか。理由はなんなのか。どうして子供なのか。私の頭の中は疑問でいっぱい。子供には夢があるのに、その夢をこわして、まるで道具のように。私は、この話を聞いていると涙が出てくる。

子供は親や社会に守られ、教育をうけて将来の夢を見る権利があります。親でもない反政府組織に連れ去られ、小型武器を使って人を殺すことを教えられるのです。子供の頃の人を殺すという体験は、その人の人生を変え、一生消えることのない罪として、その日との心の中に残ってしまいます。



普通に暮らしていた子供たちが、突然政府組織に連れ去られ、子供兵士の訓練キャンプに入れられてしまい、「人を殺す」ということを習うそうです。その子供というのが18歳以下の私たちぐらいの子供なのです。絶対に許せないことだと思います。子供兵士が今、増加しています。その理由は武器の改良が進んでどんどん小さくて軽くなって、子供にも使えるようになったからです。

21世紀が明るい日々であるには、私たちが小さなことからでも動き出さないと、暗い、悲しい出来事が増えるばかりだ。自分のことでせいいっぱいの人間と反対に、毎日毎日を一生けんめいに生きている人間がいる。地雷も戦争も、笑顔が増えるためには何の役にも立たない。21世紀をすばらしい世紀にするために必要なのは、優しさと勇気だ。

UNギャラリーへようこそ

今年1月に国連大学ビルが新たに「UNハウス」と名づけられたことを受け、「UNギャラリー」は写真やパネルなどの展示を中心とした多目的のスペースとして4月4日より一般公開されています。

■UNギャラリー開催からこれまでの展示

ギャラリーの第一回の展示は、6月8日（金）まで「**国連環境計画（UNEP）写真展**」を行いました。

現在は第二回展示として6月18日から8月末まで、「**なくそう！小型武器・対人地雷**」展 — 地球にはびこる小さな大量殺傷兵器 — を開催中です。小型武器と地雷の展示では写真や説明パネルだけでなく、実物の武器や地雷をショーケースに入れて展示したり、子どもにわかりやすいイラストパネルや展示用のパンフレットを作成し、好評を得ています。また、展示に参加しているNGOは模擬地雷を設置し、参加者に地雷の恐ろしさを感じてもらっています。

ギャラリー開館時間が平日のみであるにもかかわらず、一般の見学者はこれまで6,000人に達しています（この数は、参加者が自主的に入口で受け取る入館用シールの数をもとにしており、実際はそれ以上の方が見学していると考えられます）。また、UNハウスで催される大小様々な国際会議やセミナーなどの参加者も多くギャラリーを見てくださっており、これらの数を加えると6,000人をさらに上回ると思われます。

国連広報センターは、今回の「UNギャラリー」発足を機に、修学旅行生やNGOをはじめとした社会人グループの見学を積極的に受け入れています。今後も国内にある22の国連機関やNGOとの協力のもと、国連の様々な活動を広く紹介していく予定です。

■今後の展示予定

上記に続くUNギャラリーでの第三回の展示は、9月4日から13日まで、国際労働機関（ILO）の**児童労働に関する展示**を予定しています。

第四回は、9月17日から10月4日まで、（財）日本ユニセフ協会が主催する写真展「**20世紀の瞬間：紛争のない世界を子どもたちへ**」（協力：共同通信社）を行います。これら秋の二つの展示は、ニューヨークで開催される「国連子ども特別総会」（9月19日から21日までの3日間）を日本でアピールする良い機会になることを期待されています。第五回の企画は、「**国連文明間の対話**」展 — 違いを乗り越え、対話の大切さを知ろう！ — というテーマで展示を10月10日（水）から2002年1月中旬までの約3カ月間行う予定です。国連総会は1998年11月4日の決議53/22により、2001年を「国連文明間の対話年」と宣言し、対話によって文化の多様性を理解し平和な世界を築くことを呼びかけています。

一人でも多くの皆さんがUNギャラリーを訪れていただきますよう、心よりお待ちしております。

国連用語クイズのこたえ

- 1) 国連薬物統制犯罪防止事務所
- 2) 麻薬委員会
- 3) 国際麻薬統制委員会
- 4) 麻薬に関する単一条約
- 5) 向精神薬に関する条約
- 6) 単一条約を改正する議定書
- 7) 麻薬および向精神薬の不正取引防止に関する国際連合条約
- 8) 国連地域間犯罪司法研究所

◎世界から、日本から、児童労働をなくそう

「児童労働に関する展示」のお知らせ



写真提供・ILO

UNギャラリー第3回展示は9月4日から13日まで、国際労働機関（ILO）による「**児童労働に関する展示**」を予定しています。

世界には、生活のために働かざるをえない子供たちが2億5千万人もいるといわれ、まったく教育の機会を与えられることなく働かされる子供（5～14歳）は、およそ1億2千万人にのぼります。

こうした実態を広く知っていただくため、今展示では児童労働の実態を写真パネルでご紹介します。なお期間中の9月7日（金）午後1時30分より、児童労働に関する条約批准を記念したシンポジウムを同時開催予定です。参加ご希望の方は、ILO東京支局（Tel: 03-5467-2701）までお問い合わせください。

アナン国連事務総長の再選によせて

◇以下は国連広報官・植木安弘氏からの寄稿です。これは個人的見解であり、国連の公式見解ではありません。

コフィー・アナン国連事務総長は6月29日に再選が決まり、第7代目の事務総長として来年から更に5年間その要職を勤めることになった。

事務総長選挙は任期の切れる数カ月前に行われるのが普通だが、半年も前に再選が決まることは異例だ。また、先のブトロス・ガリ事務総長が米国の反対で1期で終わり、同じアフリカグループの代表としてアナン事務総長は2期目を担うことになったが、これでアフリカグループ出身者が3期を務めることになることも初めてのことである。

「世界で最も困難な職」と形容される国連事務総長職だが、アナン事務総長についてはほとんど批判の声が聞かれないのも極めて異例だ。国連事務局からの「たたき上げ」としての国連事務総長である点もこれまで外交官出身者が多かった前任者とは違う。

異例づくめの人だが、再選された理由には幾つかあろう。まず、最大の理由として挙げられるのは、事務総長選出の鍵を握る安全保障理事会（安保理）常

任理事国の5カ国の信任を得て、特に冷戦後の唯一の超大国たる米国との関係を改善させたことがあろう。国連に極めて強い不信感を抱いている米共和党のジェシー・ヘルムズ前上院外交関係委員会議長をして「気

に入った（I like him）」と言わせた人である。このこともあり、米国は10億ドル以上の国連分担金滞納金のうち相当額を返済することになった。

この態度変更の背景には、米国が要求してきた国連改革が相当程度進んだこともある。アナン事務総長自身、就任以来、国連改革を最大の目標に国連事務局を中心とした改革案を次々に打ち出した。予算のゼロ成長と結果重視型への転換、国連職員の実質減、効率向上、「内閣スタイル」と呼ばれる集団的政策決定や協議の推進、国連諸機関のより緊密な協力など、実質的な改革の成果をあげている。また、各国間の政治交渉で、米国の国連予算への分担率が減少したことも国連と米国との争点を解消することに寄与している。

国連平和維持活動（PKO）では、ルワンダやボスニアのスレブレニツァで国連PKO活動展開中に起きた大量虐殺事件に関する第三者による分析、報告を行わせ、その教訓を背景に、PKO活動強化のために大規模な改革に取り組んでいる。

外交的成果としては、ミレニアムサミットを成功させ、人権尊重を強く推進

したことをはじめ、アフリカの大国ナイジェリアの民主化に貢献したことや、パンナム機墜落事件でリビアの容疑者の第三国での裁判実現に寄与したこと、東ティモールの将来を決める住民投票後の騒乱の中で、有



2期目を迎えて記者会見にのぞむアナン事務総長。
中央はナーネ夫人、左は娘のアマさん

力国の積極介入やこの介入を受け入れさせるためのインドネシア説得に尽力したこと、グローバリゼーションが進む中で環境保全や労働基準の遵守、人権尊重などを骨格とした企業の社会的責任を「グローバル・コンパクト（地球規模の社会契約）」という形で打ち出したこと、エイズ問題への対処を国際政治協力の大きな課題にしたことなどが挙げられよう。

しかし、何と言ってもアナン事務総長の最大の貢献は、国連事務総長という職に再度威厳と尊敬をもたらし、国連という多国間機関の信頼を回復したことであろう。189カ国の加盟国の国益と政治的利害関係が錯綜する中で、これらの国々に使える多国間政治機関の事務総長として各国の信頼を得て中立的な立場を守ることとはそう誰にでもできるものではない。感情に走ることがなく常に冷静で、コモンセンスを持ち、周りの意見をよく聞き、バランスの取れた判断をし、筋の通った流暢な英語で語りかけ、ユーモアのセンスがあり、部下を大事にする。出身国ガーナの伝統や若い時代を過ごした欧米での価値観、国連での行財政の知識、PKOでの政治的経験などをベースに総合的な人間に育っていったのだろう。

3月に再選の意向を表明した際に、何度も深く考え、最終的にはスウェーデン人の奥様の支持を得て心を決めたと言った。奥様思いの人でもある。



（上）再選にあたり、報道陣と語るアナン事務総長
（右）ジェノバサミットでベルルスコーニ首相に迎えられた事務総長



コフィー・アナン国連事務総長

H I V／エイズに関する国連特別総会での演説

ニューヨーク、2001年6月25日

"Up to now, the world's response has not measured up to the challenge. But this year, we have seen a turning point. AIDS can no longer do its deadly work in the dark. The world has started to wake up."

私たちはこの特別総会において、これまでに前例のない危機、しかし、解決策がある危機について話し合おうとしています。この危機は、私たちすべてによるこれまでに前例のない対応という解決策があります。ここで、私たちの今後の行動について合意がなされます。

エイズが世界に初めて出現してから20年の間、この病気は地球のあらゆる場所に蔓延しました。これまでに約2,200万人がエイズで死亡しています。エイズにより、1,300万人の子どもが孤児となっています。

今日では、3,600万人以上がH I V感染者あるいはエイズ患者となっています。昨年だけでも、500万人以上が新たに感染者となりました。さらに、1日あたり1万5,000人の人々がH I Vに感染しつづけています。一部のアフリカの国々では、H I V／エイズによって発展が10年かそれ以上も逆戻りしました。また、東欧、アジアおよびカリブ海でも、恐ろしいスピードで蔓延が進んでいます。

これまでの世界の対応は、この挑戦の大きさに見合ったものではありませんでした。しかし、今年はその転

機が訪れました。エイズはもはや、暗闇の中で死者を出しつづけることができなくなりました。世界は目覚め始めたのです。医師やソーシャルワーカー、活動家やエコノミスト、そしてとりわけ、エイズ患者や感染者の方々による主導の下、メディアと世論の認識が高まっています。政府の間でも認識が高まっています。そして、民間セクターでも認識が高まっています。

この悪夢が始まって以来、これほど共通の目的が私たちの間に生まれた時期はありませんでした。

私たちは指導力、協力および連帯を結びつける必要性をこれほど感じたことはありませんでした。

指導力はそれぞれの国で、それぞれの地域社会で、さらには、国連システム全体が関与するようになった国際レベルで必要とされています。私たちはすべて、エイズを自らの問題と捉えなければなりません。私たちはすべて、これを自らの優先課題としなければならないのです。

協力は政府、民間企業、財団、国際機関、そしてもちろん市民社会の間

で必要とされています。非政府組織（NGO）は当初から、エイズ対策の先頭に立ってきました。私たちはすべて、その経験から学び、その例に倣わなければなりません。この特別総会でNGOが積極的な役割を果たしているのは、まさに当然のことなのです。

最後に、健常者と病人の間、富める者と貧しい者の間、そして何よりも、豊かな国々と貧しい国々の間には、連帯が必要です。開発途上地域におけるエイズ対策への支出は、現在の約5倍の額に引き上げる必要があります。アフリカの指導者たちがアブジャ・サミットで公約したように、開発途上国自身には、応分の負担を行う用意があります。しかし、独力でこれを達成することは不可能です。先進国の一般の人々は、このことに対する理解を示すようになってきました。私はその指導者たちに対し、これに沿った行動を取るよう求めます。

この例外的な努力に必要な資金を動員するとともに、この資金が効果的に用いられるようにしなければなりません。私はこのため、私たちが必要とする包括的で一貫性のある協調的戦略への資金調達を支援する目的



- 1) HIV/エイズ特別総会で演説を行うアナン事務総長
- 2) ニューヨーク本部で行われた「エイズ・メモリアル・キルト」の式典
- 3) 特別総会の模様
- 4) 議論を重ねるハッリ・ホルケリ議長（前列右）ら

で、政府と民間のドナーをともに受け付ける「地球エイズ健康基金」の設立を要請しました。私たちの目標は、今年末までにこの基金の運営を開始することにあります。私はすべての関係者と協力を続け、この目標を達成してゆく所存です。すでに拠出金の公約を行っている方々に対し、私は拍手を送りたいと思います。私は、特別総会の期間中と期間後に、他の人々もこれに続いてくれることを期待します。

"And let us remember that every person who is infected -- whatever the reason -- is a fellow human being, with human rights and human needs. Let no one imagine that we can protect ourselves by building barriers between us and them. For in the ruthless world of AIDS, there is no us and them."

他人に対してその行動を変え、感染から身を守るよう求めるのであれば、私たちにもまた、公的な分野で自らの行動を変える用意がなくてはな

りません。道徳的な判断や、好ましくない事実との対峙を拒否することで、エイズに対処することはできません。

ましてや、感染者を非難し、すべてを自己責任に帰すことなど到底できません。人々がどのように感染に到るのか、そして、感染を回避するためにはどうすればよいかにつき、明確かつオープンに語ることでしか、問題の解決は図れないのです。

また、その理由が何であれ、感染者は、人権と人的

ニーズを備えた同じ人間なのだということを忘れないようにしましょう。私たちと感染者の間に壁を作ること、自分たちを守れるのだという幻

想を誰にも抱かせてはなりません。エイズという非情な世界では、自他の区別など存在しないのです。

これらすべてを成就するために、私たちは自分自身のためではなくても、子どもたちのために変わらなければなりません。私たちはこの総会を真の意味で特別なものとしなければなりません。そして、世界に希望のメッセージを送らなければならないのです。



エイズ特別総会のポスター



←レッドリボンのとともにニューヨークの国連本部ビル

←UNハウス前で行われた式典で挨拶するオティオティオ・ナイジェリア大使

↓左から同大使、家西悟議員、川田悦子議員



Red Ribbon Opening Ceremony



エイズとの闘いにあらゆる人々の積極的な参加を得ることが、私個人にとっての最優先事項です。エイズの蔓延は公衆衛生上の課題であり、社会のすべての分野から専門知識を総動員して対処すべき段階に立ち至っています。この事態を、予防、教育、ケア、治療のあらゆる側面で一気に好転させるため、私は、政治的決断と資金配分の両面で、かつてない程の意識の高まりを得たいと願っているのです。



アナン国連事務総長のメッセージ

東京渋谷のUNハウス（国連大学ビル）では、6月25日にエイズ撲滅のシンボル・マークのレッド・リボン（別名エイズ・リボン）の除幕式が行われました。このイベントは同日から3日間にわたってニューヨークの国連本部で開催された「HIV/エイズ特別総会」にあわせた催しです。

「グローバルな危機にグローバルな行動を」と銘打った今回の特別総会では、HIV/エイズをめぐる深刻な事態に対し、予防、教育などあらゆる側面からの対処について話し合われました。

エイズ問題に対する国連の活動を日本の皆さんに広く知っていただくため、UNハウスの正面入り口にはレッド・リボンとコフィー・アナン国連事務総長のメッセージを添えた記念パネルが設置されました。なお、イベントには家西悟衆議院議員、川田悦子衆議院議員、外交団を代表してオティオティオ・ナイジェリア大使がご参加くださり、除幕に引き続いてエイズ撲滅へのメッセージを發表いただきました。

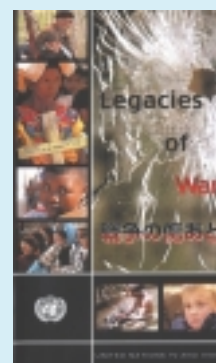
ビデオ紹介

Legacies of War 「戦争の傷あと」

戦争が残した影響は、戦争が行われた時期と同じくらい長引く問題です。和平協定などで戦争が終結しても、その影響はすぐさま消えるわけではありません。

実際の戦闘が終わっても、深く大きな傷あとが何の関係もない一般市民に残ります。それは、残された爆弾、地雷による身の危険、戦争が残した社会崩壊、そして人々の心の中に残された傷などです。本作品は、戦争の傷あとから立ち直ろうとする市民たちのドキュメンタリーです。

当広報センターでは（財）人権教育啓発促進センターの協力を得て、この国連ビデオの日本語版を制作しました。貸出期間は2週間です（延長可能）。ご希望の方は広報センターまで。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> E-mail: unictok@blue.ocn.ne.jp